

# 妙見メモリアル

研究組織 : 山下研究室  
受託期間 : 平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日  
ディレクション : 平井邦彦  
デザイン・設計 : 山下秀之 (主査)  
描画 : 桑野洋紀  
模型 : 丹 洋祐、武井奈津美、篠崎正芳、木村雄介、白石善彦、中臺嘉章、山田真之、斎藤 基、梅木 優  
CG・断面図 : 沼田 聡、野口祐也

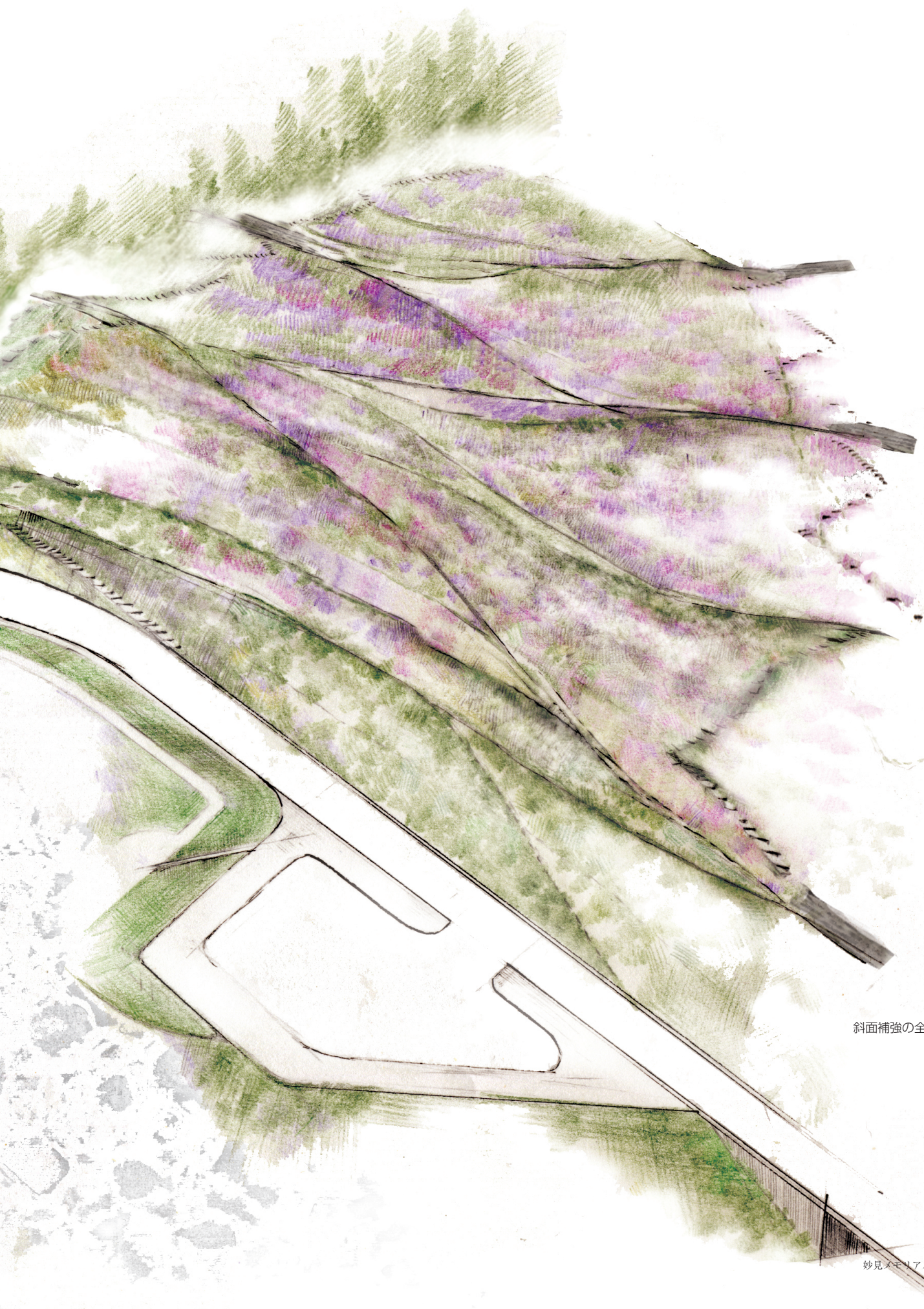
## はじめに

本研究は、中越地震（2004 年 10 月 23 日発生）の大規模土砂崩れに、魚沼市の母子 3 人が巻き込まれた長岡市妙見町の現場に、メモリアルの場を検討するものです。奇跡的に皆川優太ちゃん（当時 5 才）が救出され、哀悼そして復興への祈りの場として、人々の脳裏に焼き付いている象徴的な場所です。

ここにあらためて、命を落とされた優太ちゃんのお母様、お姉様のご冥福、そして震災で命を落とされた 67 人の方々のご冥福をお祈りいたします。そしてご遺族の方々に深くお悔やみを申しあげます。また、被災され復旧復興に日夜長期間にわたりご苦労をされた住民の皆様方、そして行政および復旧復興関係の方々に、深く敬意を表します。

なお、本研究に授かった研究費は、第 3 案に対してですが、デザイン経緯の提示は不可欠と思い、第 1 案、第 2 案も合わせて紀要集に掲載いたしました。





第1案  
斜面補強の全造形化



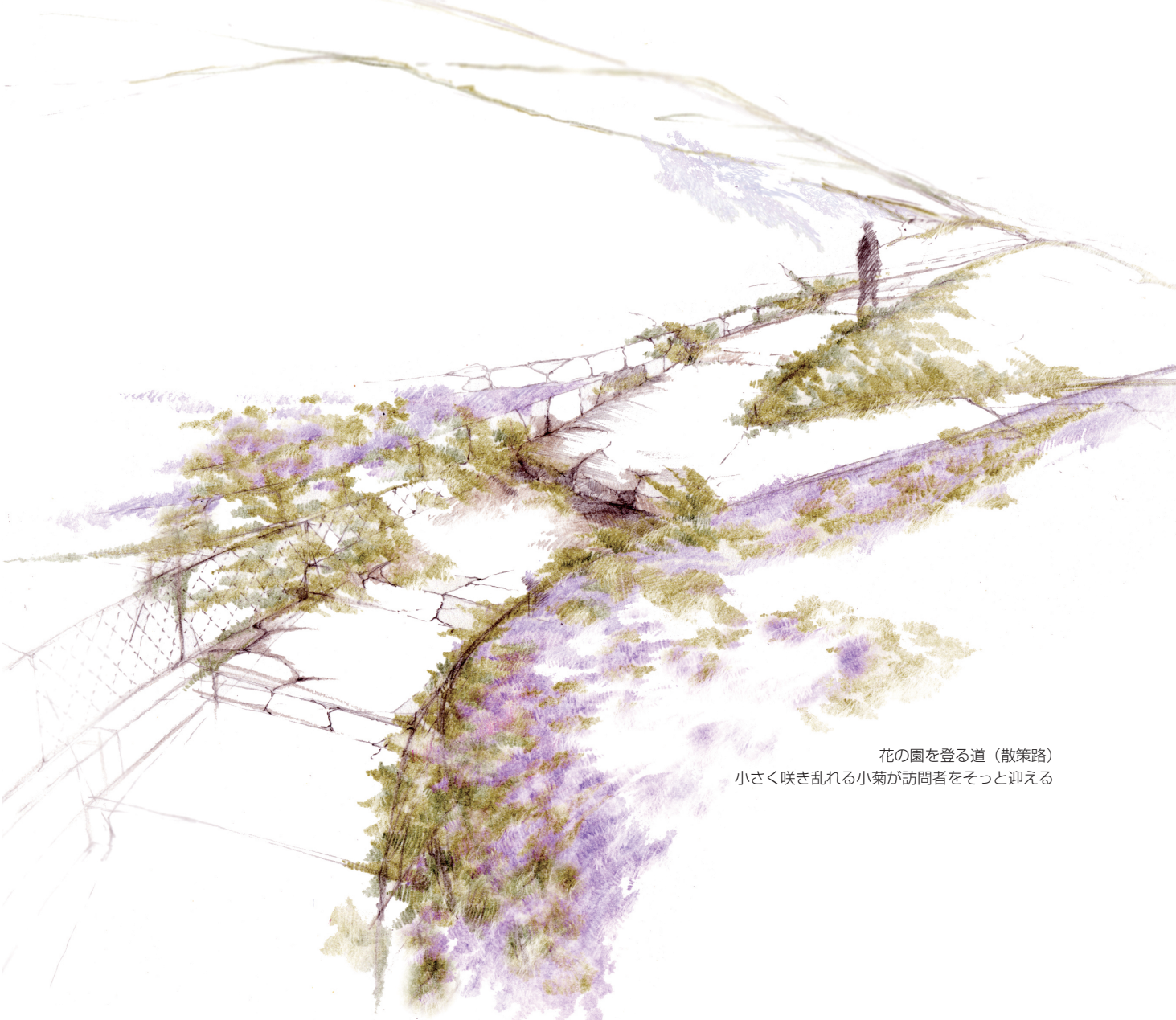
## 研究の経緯

本学平井邦彦教授（新潟県中越地震・大地復興推進会議代表世話人、社団法人中越防災安全推進機構 理事）は、復旧復興に対して、「震災の痕跡」をすっかり消し去るだけではなく、いつまでも大切に残留しておくべき場合もあると考え、妙見の県道復旧に関しては、埋まった道路を復旧をせず、信濃川の水上をゆるやかに迂回するルート、あるいは山側にトンネルを掘って迂回するルートなどの可能性も検討していた。

この時点で、平井教授より検討要請を受けた。状況を分析より以下の3つの論点を抽出し、「何をすべきであるか」「何ができるのか」を、平井教授と思索した。

- 1 震災の記憶を大切に残留しておける方法がないか
- 2 新潟県の県道復旧計画は否定できないだろう
- 3 何かをするにしてもさほどコストを要しない方法はなにか

結果、この一帯を慰霊のための「メモリアルと花の園」にしつらえ、訪れる人々や通過する人々が、数年後も、数十年後も、ある種の雰囲気を感じとれるようにする考えが浮上した。ほどなくして案は長岡市に提示され、新潟県長岡地域振興局災害復旧部および長岡市復興推進室との調整がはじまることになる。長岡市嘱託員の小林正夫氏（緑花推進指導員）より、植栽選定に関する的確なるご助言を賜った。



花の園を登る道（散策路）  
小さく咲き乱れる小菊が訪問者をそっと迎える



## 第1案（山側集中案） P88-P89のイメージ画

2005年12月2日

新潟県長岡地域振興局災害復旧部への提案（長岡市復興推進室+長岡造形大学）

2005年12月27日

森民夫長岡市長へのプレゼンテーション（長岡市復興推進室+長岡造形大学）

### 提案の概要

#### □ 提案に向けての目標設定

- ・行政による素案（右画）を前提とすること。
- ・案を実行するにあたり、提示された総予算に吸収されうるコストでまかなうこと。
- ・提案の目的は、修復現場全体を「慰霊と記憶」のメモリアルとして考えること。



新潟県による県道復旧計画案  
（提供：新潟県長岡地域振興局災害復旧部）

#### □ 提案のコンセプト

- ・道路より上の「緑化法面」を「祭壇」と見立てる。
- ・10月23日ごろ、「緑化法面」の一面に「白い花」が咲いている。
- ・それは人々が献花する「祭壇」のようでもある。
- ・頂部から、眼下には、「白い花の園」に、道路をはさみ「崩落した岩石」が連続する。
- ・対岸から、正面には、下半分には「崩落した岩石」、上半分には「白い花の園」が対比をなしている。

#### □ 花の種類について

- ・「白い花の園」は「白菊の花」、それは「大輪の菊」ではなく「小菊」とする。
- ・一方で、四季折々に異なる花々が咲くも考えられる。たとえば、春には「ひな菊」が咲くというように。
- ・「菊」の漢字は、散らばった米を1ヶ所に集める、という意がある。
- ・野性味の濃い小菊は寒さには強い。
- ・「小菊」の花言葉は「真実、元気」。

#### □ 文芸に見る「冬菊」「白菊」

- ・「冬菊の まとふはおのが ひかりのみ」 水原秋櫻子
- ・「心あてに 折らばや折らむ 初霜の 置きまどはせる 白菊の花」 古今集 百人一首（29） 凡河内躬恒

#### □ つづら折りの小径について

- ・「緑化法面」には、小径が「つづら折り」に設計されている。
- ・「つづら折り」には、以下の意味を託している。

- 1 天空から慰霊の「ともしび」が降りてくること。
- 2 崩落した斜面、ひいては地震をおこした地霊を鎮めること。
- 3 神主が大麻（おおぬさ）を左右に振ってお祓いをする動作。
- 4 大麻（おおぬさ）の一部である紙垂（しで）の造形。
- 5 棚田に関連する造形。

- ・その頂部には、もうひとつの慰霊碑が置かれている。
- ・その折り返し部分には、花の園を間近に見渡す「見晴し台」が敷設されている。
- ・複数の「見晴し台」を結ぶための階段が「緑化法面」の両側に設置されている。
- ・条件が整えば、「つづら折りの小径」は、一般の方々が「花の園を登る道」としても考えられる。
- ・条件が整わなければ、それは「花の園の区画境界」であり、メンテナンス用の「通路および水路」となる。

#### □ メモリアル・デー

- ・メモリアル・デーには、つづら折りの小径に沿って「たいまつ」が焚かれる。
- ・「見晴し台」には、ひときわ大きな「たいまつ」が焚かれる。
- ・一般の人々は、道路から、あるいは対岸からその慰霊の「ともしび」を見て祈りを捧げる。
- ・駐車場では、メモリアル式典が行われる。

花の園を登る道（散策路）  
山寺への小径を思わせる雰囲気



## 第2案（山側川側分散案）

2006年2月9日

泉田裕彦新潟県知事への要望・記者発表（長岡市＋小千谷市＋川口町＋長岡造形大学）

### 修正案の提案概要

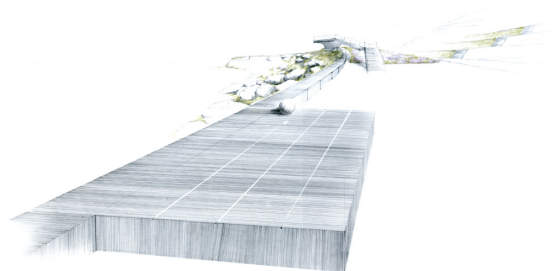
#### □ 修正案の経緯

長岡市より案の修正要請を受けて、第1案を見直した。斜面の上半分が急勾配であり、以下3つの理由で、花の園を縮小する第2案を検討した。

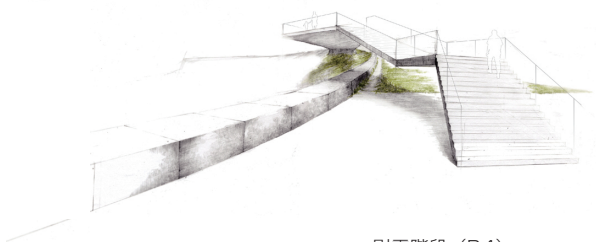
- 1：工事が困難（技術的・日程的・費用的）
- 2：植栽メンテナンスが困難
- 3：人に歩いてもらうことが危険

#### □ 災害メモリアル拠点の整備に関する要望書

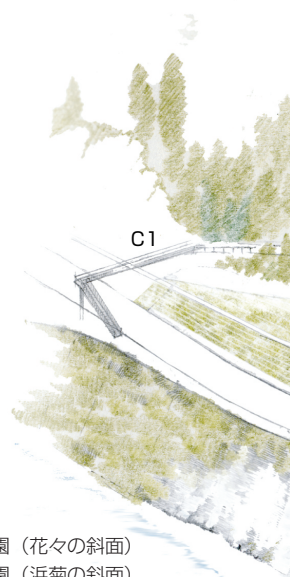
この案を持って、3つの行政区による合同の要望として、「長岡市妙見町地内の県道復旧と併せた災害メモリアル拠点の整備に関する要望書」をまとめ、森民夫長岡市長、関広一小千谷市長、岡村譲川口町長とともに、2006年2月9日に泉田新潟県知事に提出し、説明および記者発表をした。



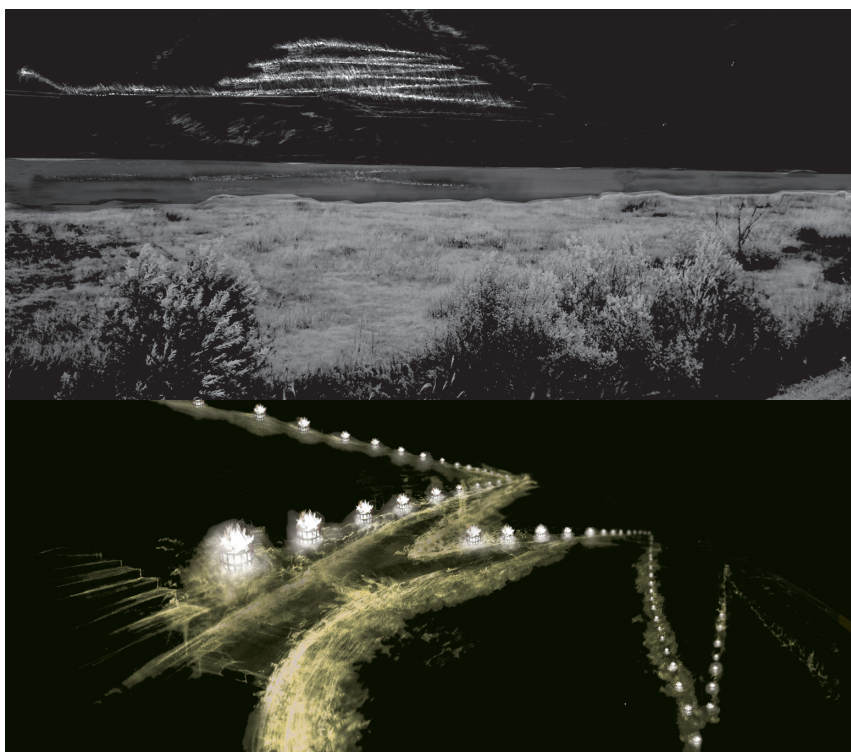
献花台（B2）



慰霊階段（B4）



C1



対岸からの夜景

たいまつをつづら折り

- A1 不死鳥の園（花々の斜面）
- A2 白い花の園（浜菊の斜面）
- A3 つづら折りの小径
- A4 参道階段
- A5 地霊を祀る石碑
- A6 メンテナンス階段
- B1 慰霊広場
- B2 献花台
- B3 慰霊碑
- B4 慰霊階段
- B5 スロープ
- B6 岬
- B7 広場緑化法面
- B8 駐車場
- B9 トイレ・自動販売機
- C1 歩道橋
- C2 森の小径
- C3 見晴らし台



## □ 設計主旨

### 1 花の園

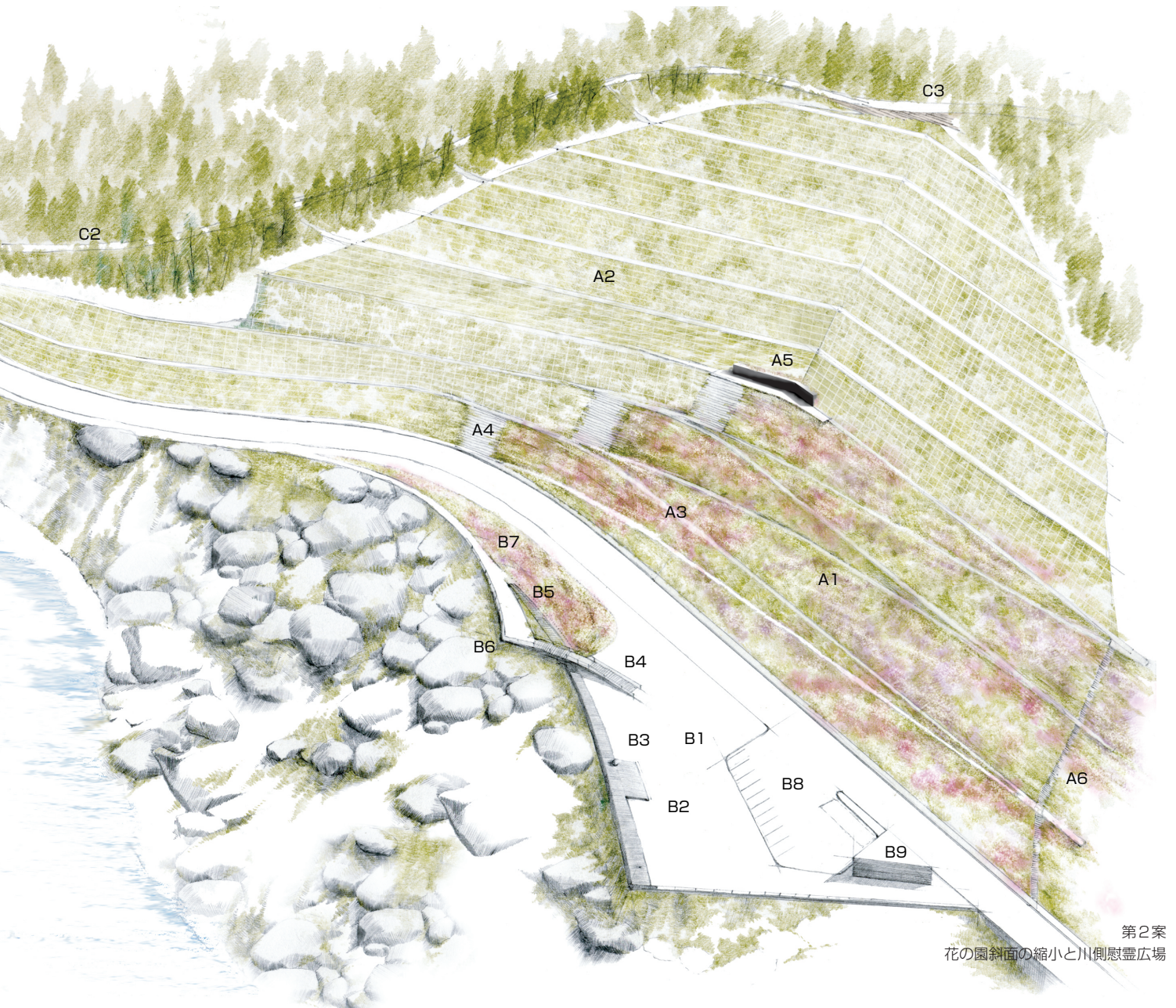
- ・道路より上の「緑化法面」の一部を、「花々でいっぱいの祭壇」と見立てる。
- ・10月23日ごろ、「白い花（小菊）」に包まれて「色々花々」が咲いている。
- ・つづら折りのパターンは、「不死鳥」の羽を表現している。
- ・花々の斜面を登りきった中腹には「地霊を祀る石碑」がある。

### 2 慰霊広場

- ・「慰霊広場」は、崩落斜面に面して長くゆるやかな逆円弧を描く。
- ・「慰霊碑」は、長い「献花台」の中央に置かれている。
- ・「慰霊広場」の階段を登った高台は、小さな「岬」のようで、人々は眼下に祈りをささげる。
- ・「岬」には、祈りの言葉が刻まれている。
- ・「岬」からふりかえると、斜面の「花の園」を見渡すことができる。

### 3 メモリアルデー

- ・対岸から見ると、下半分の「崩落した土砂」と、上半分の「花の園」が対比をなしている。
- ・メモリアルデーには、「つづら折りの小径」に沿って「たいまつ」が灯され、対岸からよく見える。
- ・京都「大文字焼き」第一画の150mに対して、つづら折りの水平長さは、約70mほどである。
- ・「緑化法面」の最頂部の「見晴し台」より、花火が打ち上げられる。
- ・「見晴し台」より、信濃川に浮かぶ屋形船のともしびを臨む。





## 第3案（川側集中案）

案提示 2006年7月12日

微修正 2006年7月21日

## 再修正案の提案概要

### □ 再修正案の経緯

新潟県より、工事日程、予算措置、関連法規等の検討結果、山側法面に祭壇の花の園をしつらえるのは不可能という連絡を受けた。よって、再度、修正案を検討し、川側法面に限定した第3案を提案した。

### 第3案

一枚の擁壁の川側には崩落した土砂をそのまま残し、東面にはつづら折りの花の園をしつらえる

### □ 設計主旨

#### 1 つづら折りのダイアグラム

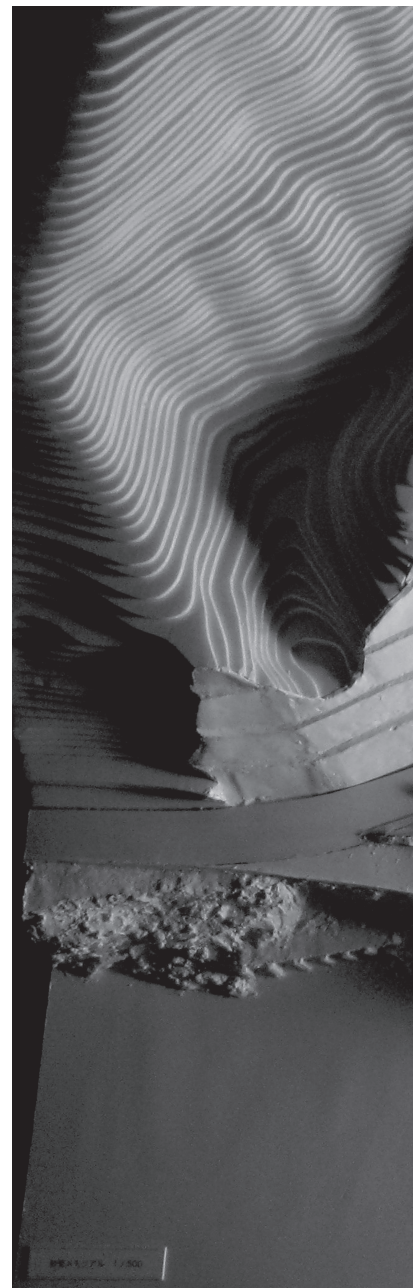
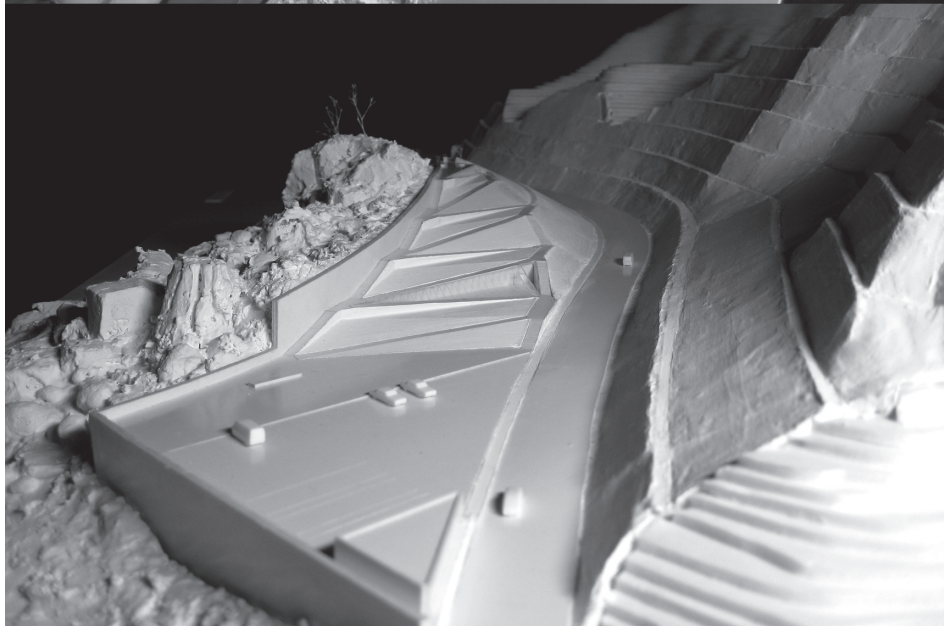
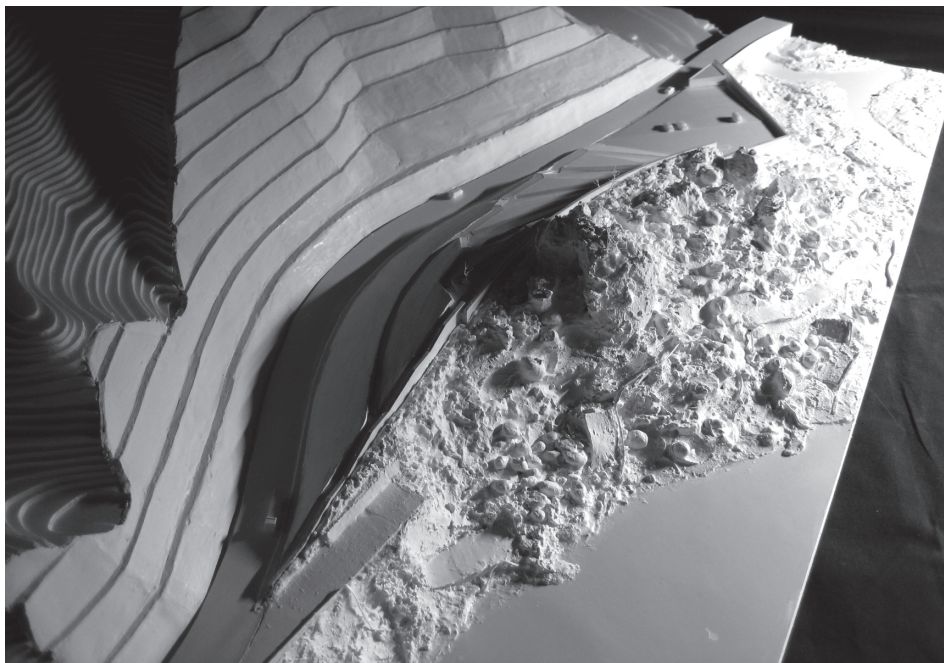
- ・ 不死鳥のイメージ・棚田のデザイン
- ・ 直線的に（車椅子のために）
- ・ 建築的に（RCスラブ打設のために）

#### 2 つづら折りの花壇

- ・ 第一案：白菊で統一
- ・ 第二案：色とりどり
- ・ 一部に建築空間が組み込まれる

#### 3 つづら折りのスロープ

- ・ RCスラブ+杭工（造成斜面が沈下するので）
- ・ 巾2m
- ・ 車椅子対応（1/15勾配以下）
- ・ 仕上げは未定（ノンスリップ処理）





- ・スロープ片側に手すり
- ・スロープ片側に側溝と散水栓

#### 4 階段と踊り場

- ・RCスラブ+杭工（造成斜面が沈下するので）
- ・巾2m
- ・擁壁沿い階段と崩落斜面の取り合いは未定
- ・道路沿いの階段の踊り場から花壇に踏み込む

#### 5 慰霊の高台

- ・RCスラブ+杭工（造成斜面が沈下するので）
- ・仕上げは未定（ノンスリップ処理）
- ・献花台は石仕上げ
- ・ベンチ（石）が必要と思われる

#### 6 慰霊の広場

- ・RCスラブ+杭工（造成斜面が沈下するので）

- ・仕上げは未定（ノンスリップ処理）
- ・慰霊碑は、高さがあるデザインに
- ・献花台は石仕上げ
- ・雨避けのシェルターが必要かもしれない

#### 7 駐車場

- ・アスファルト仕上げ

#### 8 トイレ

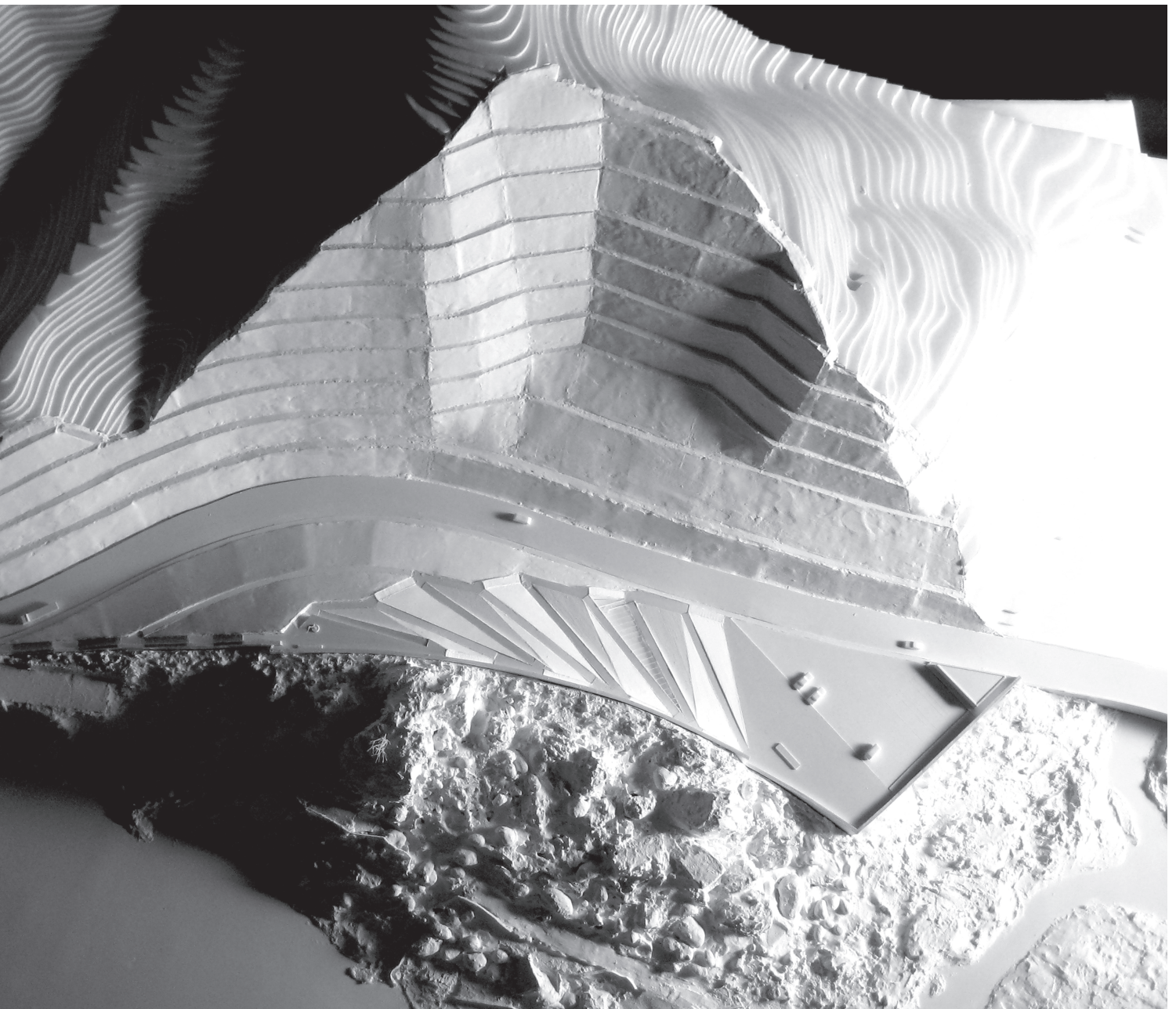
- ・RC打ち放し仕上げ

#### 9 山側法面

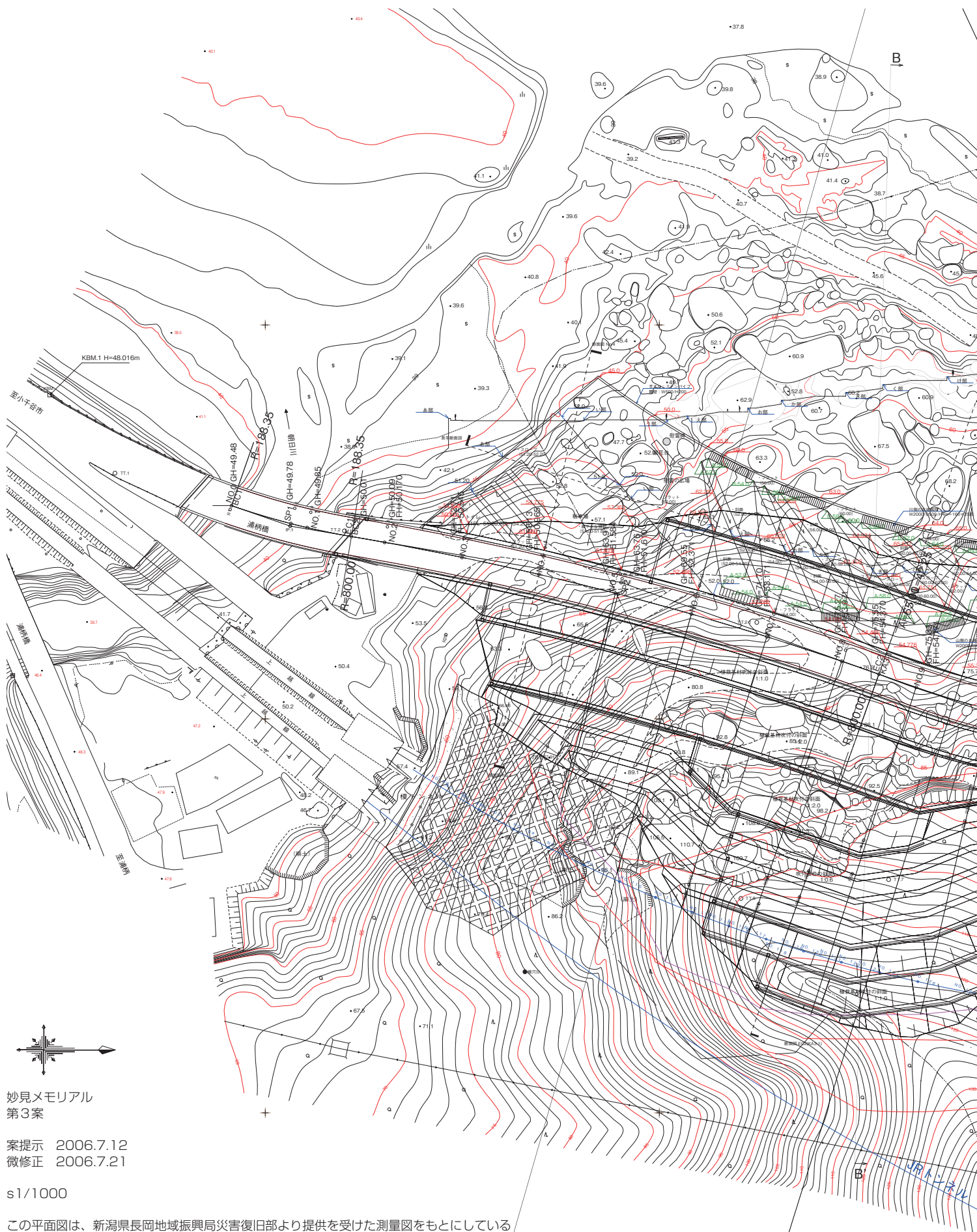
- ・道路復旧工事による全ての法面は、山側も川側も、勾配に関わらず、ヨモギによって緑化する
- ・山側法面一段目の雪崩防止柵の塗装は、白から黒に変更する

第3案

川側に整備された緑化法面に、つづら折りの花の園を織り上げていく







妙見メモリアル  
第3案

案提示 2006.7.12  
微修正 2006.7.21

s1/1000

この平面図は、新潟県長岡地域振興局災害復旧部より提供を受けた測量図をもとにしている



